

## どいんじょうだいこんの 大ちゃん

「あつ、だいこん。」

「ほんとだ。こんな ところに だいこんが はえてる。」

さやかと ゆうじは 学校へ 行く と中、歩道の かたい アスファルトを つきやぶって 顔を 出して いる だいこんを 見つけて、びっくりしました。

だいこんに 「大ちゃん」と 名前を つけた 二人は、

「きのうよりも、大ちゃん 大きく なったね。」

「はっぱの 数も ふえて いるよ。」

と、毎日 かんさつするのが 楽しく なりました。

びよう気で 入いんして、しばらく 学校を 休んで いた さやかは、たくましく そだつ ていく 大ちゃんを 見る たびに、大ちゃんが

「ぼくも がんばるから、さやかちゃんも 毎日、元気で 学校に 行くんだよ。」

と、はげまして くれて いるような 気が しました。二人は そうだんして、「大ちゃんに やさしく してね」と いう 立てぶたを 作って、大ちゃんの そばに おきました。

そのころには、大ちゃんは、どいんじょうだいこんの 大ちゃんとして、すっかり 町の 人 気ものになつて、大ぜいの 人が 見に 来るようになつて いました。

ある 日の こと、二人が 大ちゃんの そばを 通るといつもと ようすが ちがいます。

大ちゃんが だれかに ね元から おられて しまつて、どこにも 見あたらないのです。

「大ちゃんは、どこへ 行って しまったの。」

ゆうじが 言いました。

「毎日、楽しみに して いたのに。」

さやかの 目から なみだが あふれました。

それから、二人は おられた 大ちゃんを 見ないように、少し はなれた ところを 通つ て、学校に 通いました。

さやかは、学校に いても、家に いても、大ちゃんのこと が 気に なります。

しばらく たつて、大ちゃんの 近くまで 来た とき、大ちゃんの まわりを たくさんの 人が かこんで いるのを 見つけました。二人は かけよつて、そつと のぞいて みました。すると、おられた 大ちゃんが、元の 場しよに いるでは ありませんか。

おつた 人が もどしたのでしょうか。でも、すっかり しおれて しまつて います。

「大ちゃん、だいじょうぶかなあ。」

「また、元気に なるのかしら。」

大ちゃんは もどつて きましたが、大ちゃんのこと が 心ばいで なりません。

そのとき、市やくしよのおじさんが やってきて、言いました。

「このままでは、大ちゃんは かれて しまいます。市やくしよで 大切に そだてて、元気をとりもどします。そのあと、手じゅつを して、大ちゃんの子どもたちを いっぱい 作ります。」

二人は、この話を 聞いて、顔を 見合わせて にっこりしました。

「大ちゃん、がんばれ。」

本資料の著作権は兵庫県教育委員会に帰属します。  
本文のすべてまたは一部について無断で複写して使用することを禁止します。